

1.CCK30 周年記念式典を終えて

代表理事 渡邊健三

10月6日(金)、日本教育会館9階喜山倶楽部にて当組合設立30周年を記念して、式典を開催しました。ご来賓、パネラー、組合員および職員の方々、63名のご参加をいただき、会場運営、プログラム進行、懇親会と予定通り、成功裏に終了することができたと自負しております。当日足をお運びいただいたご来賓、組合員および関係者の皆様、ありがとうございました。また、開催準備に向けご協力いただいた役職員の皆様にも大いに感謝申し上げます。

ご来賓の東京都中小企業団体中央会振興課主査、谷直樹様および(一社)日本テレワーク協会専務理事、奥敬祐様よりご丁寧なご祝辞をいただきました。

生き字引ともいえる当組合顧問の棚木様より、「CCK30年の歩み」を設立当初から最近に至る山あり谷ありのお話をいただきました。

基調講演ではSBI大学院大学教授吉田宣也様から「これからの10年に向けて」と題して、今後CCKの歩む道をお示しいただいたと思います。

パネルディスカッションでは、「日本型ウェルビーイングの課題と解決の方向性」を題として、日本ウエルエージング協会代表理事小川利久様、㈱FB マネジメント代表取締役山田一步様、㈱YOU TRUST 代表取締役岩崎由夏様から、それぞれ担当されているお仕事の立場から、説得力あるお話をいただきました。そして私からは人口問題と外国人材の活躍する社会をウェルビーイングの観点からお話させていただきました。人口問題はアジアの多くの国でも今後対応を迫られる問題であり、日本の優位性が薄れつつある現状で、日本がどのような対応をしていかなければならないか、問題提起をさせていただいたところです。日本の高齢化、生産年齢人口減少は非常に身近な問題ですが、奥行きが広く、深い問題でもあります。パネラーの皆さまからお話いただいた内容は視点が違ってはいても、ウェルビーイングという共通したものと私自身は考えております。今後協業していける分野があると確信しております。今回の機会をそれぞれが持つ分野の知見を生かして、具体的な成果に結びつけられるよう努力していきたいと考えています。どう結び付けられるかが課題であり、組合員皆様のご協力をお願いいたします。

私としましては、今後益々少子高齢化、人手不足が進む中、人口が増えない現状では外国から来てもらうしか解決方法がありませんので、現在担当し、取り組んでいる外国人材受入事業を一層発展させ、CCKが労働力確保という社会貢献を果たし、そしてCCKが発展し存続できるよう努力していきたいと考えています。

コンサルティング事業ではウェルビーイングの観点から事業の幅を一層広げていけるよう、今回の30周年を契機に大きく羽ばたければと考えております。

皆様の知見と行動力で次の10年を乗り越えていきましょう。

次は40周年です。頑張りましょう！

